新　刊

□福岡誠行：**ひょうごの野生植物** 222 pp. 1996. 神戸新聞社総合出版センター. ¥1,500.

副題に「絶滅が心配されている植物たち」とあるとおり, いわゆるレッドデータ植物を紹介解説したものである. 全国版のレッドデータブックでは, 地域の実情をきめ細かく反映させるわけにはゆかない. したがって地域ごとに保護すべき植物の見直しが必要である. 近畿地域ではこの動きが顕著で, さきに関西自然保護機構によって近畿地方の保護上重要な植物 (1995) が調査刊行されている. その中では生育環境の細かい仕分けの上に立って, 種類の見直しがおこなわれている. 本書でも, 1. 生活域, 2. 山地, 3. 海岸, 4. 特殊環境, 5. 特殊分布と章を立て, 1, 2, 3 では更に細かく生育地を分けて, 262種類 (種群を含む) が19人の執筆者によってごく短い文章で紹介されている. 貴重さや減少の原因などが述べられているが, 産地を特定されないような苦心もうかがわれる.「貴重」とか「珍しい」とかいうと, かえって人が集まる傾向があるのが, こういう解説書のむづかしいところである. 巻末に索引を兼ねた兵庫県の絶滅危惧植物と参考文献のリストがある.　(金井弘夫)

□橋本梧郎：**ブラジル産薬用植物事典** 2, 177 pp. 1996. アボック社. ¥72,000.

若い頃, 小笠郡植物誌など, 静岡県で植物研究を行った著者が, ブラジルへわたったのは1934年だった. 以後60年におよぶ研究成果の一部が本書である. 1980年代以降, 植物資源とくに天然薬物調査のために, 日本からも薬学関係者が多く渡伯して, 橋本氏の協力を得て調査が行われている. 本書では共著者として, 徳島文理大学薬学部の西本喜重氏が名を連ねており, 薬用成分についての校閲にたずさわっている. 17－1239頁が本論で, ブラジル原産および帰化定着の2168種が, 科のアルファベット順に配置されている. それぞれの種は学名, 出典, 異名, 現地名, 分布, 形態, 利用部位, 成分, 用途 (薬用としての), 特記事項 (生育地, 薬用以外の用途など) と, すべて同じ見出しの下に記述が整理されている. 学名については文献を猟渉し, 最適なものを選ぶべく注意したとのことである. 必要に応じて検索表が示されている. 記述は和文である. 用途や特記事項には民俗植物学的記事が多く, 著者の永年の調査成果が披露されている. 1241－1605頁は1頁に4種類を含む図版で, 著者自筆のもののほか, Fl. Brasiliensis をはじめ多くの文献から引用したものである. 1613－1974頁は本書で扱った全ての植物の分布図である. 文献からの引用と著者自身の調査によるものとで異なるマークが使われているが, その足跡の広さを実感させるものである. 付録として栽培薬用植物のリスト, 伯・英・和対照の医学・薬学単語集, 参考文献, 植物和名索引, 植物伯名の和文よみ索引, 植物伯名索引, 植物英名索引, 学名索引, シノニム索引がついており, 多様な使い方に応ずることができるようになっている. 巻頭にブラジルの歴史, 自然, 植生, 研究史の簡単な紹介, 巻末に著者略歴がある. 海外のフロラ, それも日本とは最も遠い地域のブラジルの植物を和文で一読できるとは, 研究者にとって望外のしあわせで, これによって仕込まれた予備知識の上に日本やアジアの植物を見れば, また一味違った見方や研究の糸口が得られるだろう. 有用植物の調査研究に役立つことは, 言うまでもない. 橋本氏の標本を中心とする博物館は建設途上にあり, 氏の調査の成果は本書ではまだ尽くされていない. 次の発表が待たれる.　(金井弘夫)